

アイデアを書くため専用のメモ用紙「猫の手」

A Special Note Paper for Brainstorming “NEKONOTE”

石井力重（アイデアプラント、早稲田大学）

【概要】アイデアを書き出す際に、グループワークでは、各人がポストイットに書いて次々並べていく方法や、1枚の模造紙に放射状に思考を書き留めていく方法がよく取られている。その行為をより促進する新しい道具の開発を試みた。具体的には、連結のための構造をもった特殊なデザインのメモ用紙である。百名弱に体験してもらい、自由記述形式のアンケートに回答してもらった。それらを分類し、どのような発想促進効果が大きいかを分析した。

1. 従来の方式、開発の狙い

グループでの発想作業では「ポストイットに、一葉一案形式で書く」方法や「模造紙に、発想展開を放射状に分岐する形式で書く（ ）」方法が良く取られる。

（多くの場合、マインドマップやコンセプトマップの形式が用いられる。しかしそれ以外の自由な書き広げ方も見られる。本論ではそれらを総称して「放射状のメモ」と表記する）

本取り組みでは、グループワークにおける発想活動を促進させることを狙いにすえて、専用の「アイデア書き出し用のメモ用紙」を開発することとした。

2. アイテムのデザイン

派生の触発

派生意見を触発するようにつつ、一方で、遂行が容易なように、“派生を3つ促す”ような形状にデザインした。

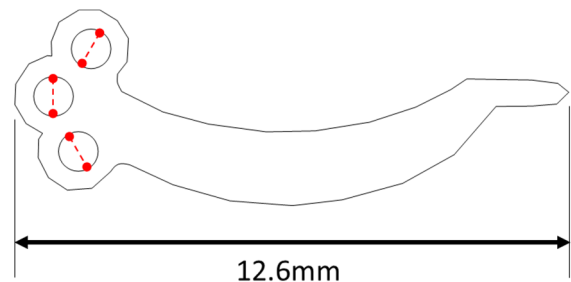
繋がりと再配置

構造化のための繋がりが物理的に形成されるようにしつつ、一方で、要素の再配置が容易なようにデザインした。

単要素記述

書く要素がシンプルになるように、記入エリアを20文字程度かけるような細長いスペースにしつつ、一方で、横長さを抑えるように湾曲した形状にデザインした。

これら、形状デザインに加え、強度と加工性という現実要素を加味して、試作と改良を繰り返し、最適解を見出した。最終的には【図1】のようなものになった。（点線は切り込み加工）



【図1】専用メモ用紙「猫の手」

初期のころからテストユーザたちは、この形のもチーフは「猫の手」と言及していた。意図したものではなかったが、そのテストが引き出すものは肯定的であったので、そのままアイテム名として採用した。

3. 大規模アンケートの実施

筆者が担当する授業（早稲田大学・人間科学部・デザイン論、2016年8月31日）において、多様な発想技法の授業の一環として、このアイテムを用いて、グループでアイデア発想作業を30分ほどしてもらい、アンケートを取った。設問は「この道具が発想作業の促進となる点」を回答してもらうもの。（なお、他にも2つの設問を設けた）

この授業は、発想法の習得を狙ったものであり、被験者たちは、この道具の使用前に、多様なブレインストーミングの実践やマインドマップや他の発想技法の経験をしている。

アンケート回収数は98人分、そのうち有効回答は96人分であった。回答は自由記述式。平均して2~3個の回答が記入されていた。

そこから発想の促進要素を抽出し、グループ化した。なお、この道具だけに限らず「放射状のメモ」でも同様に見られる効果であると判断される要素と、この道具固有の効果と思われる要素は、区別してグループ化した。

4. 結果

アンケート結果、96名からの抽出要素は218個あった。

それらをグループ化したところ次のような、13項目となった。【図2】

- ① 取っつきやすい、気軽に書ける (17)
 - ② 面白い、楽しい、ゲーム感覚でできる (28)
 - ③ かわいい、形がきれいなのでやる気が出る (20)
 - ④ 発想、記述、構造化の作業を分割できる (18)
 - ⑤ 組み替えられる、構造がきれいになる (24)
 - ⑥ 個人と集団の作業がしやすい、集団でも出しやすい (30)
 - ⑦ 全体とつながりが見やすい (15)
 - ⑧ 可視化されるので進む (14)
 - ⑨ たくさん出せる (4)
 - ⑩ 広がる (18)
 - ⑪ 紙面サイズの制約を受けない (13)
 - ⑫ 表現がシンプルになる (11)
 - ⑬ 形状固有なこと、他 (6)
- （カッコ内はカウント数）

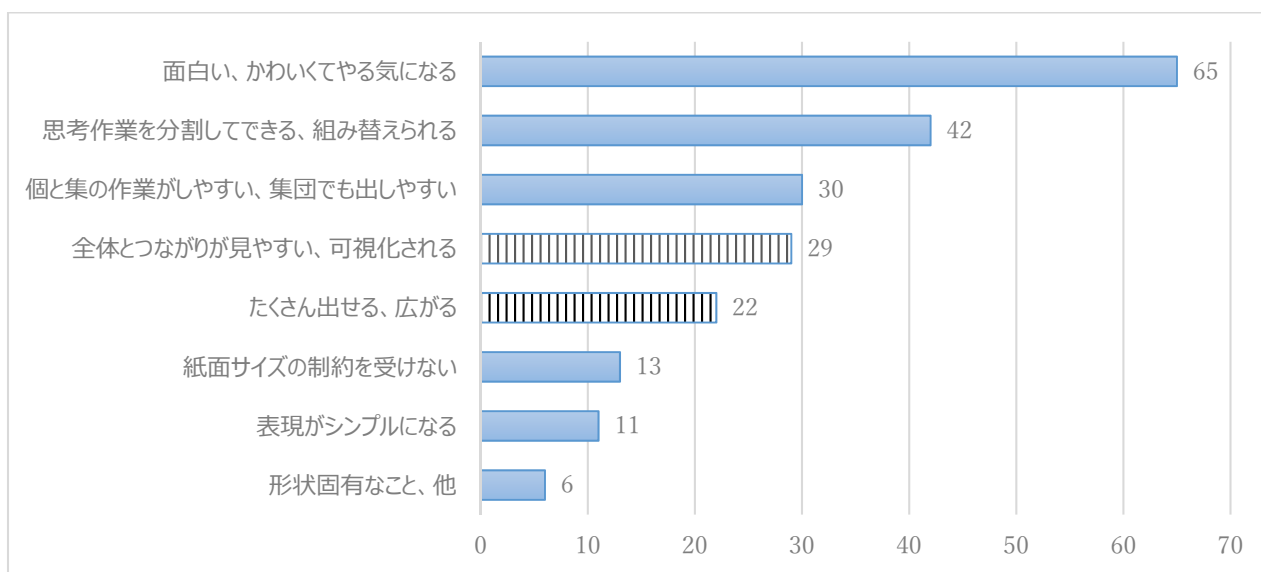
【図2】アンケート記述要素の分類結果

なお、 は、模造紙を用いた放射状のメモを書き出すグループワークでも、同じ効果は生じえるものであるため、その要素に関連する可能性のあるものは、慎重に回答の意図をくみ取り、振り分けを行った。

次に、項目間の数量を比較するために、本質的が近いものを寄せ、もう一段のグルーピングを行った。具体的には、

【 】【 】【 】【 】【 】
 【 】【 】

とした。大項目間でなるべく項目の独立性があるようにしつつも、集約しすぎないようにした。以下、グラフで示す。【図3】



【図3】自由記述から抽出した回答のカウント数（大分類）

塗りつぶしのバーはこのアイテム固有のものである。縞々のバーはこのアイテム固有の効果とは限らず、放射状のメモを用いる場合でも同様の効果は生じる可能性があるものである。

5. 考察：

一番目は【面白い、かわいくてやる気になる】であった。

具体的には「繋げていくことが楽しくなって意見が出てくる」「かわいいのでやる気がでる、親しみやすい」といった意見などが見られた。

このような発想の補助道具において、手作業が面白い・楽しい、形がかわいいのでやる気が出る、といった要素は、ほどほどの影響しかないだろうと予想していたが、実際は、非常に大きな要素であった。

手触りやフォルムを考慮した感性的デザインの重要性を認識し、こうした分野の道具は、まだ研究開発の余地の多い領域であることを改めて感じた。

二番目は【思考作業を分割してできる、組み替えられる】であった。

具体的には「考える→つながりを考えず紙に書く→ものをつなげる、という形で高度な作業をステップごとにできるので、アイデアを引き出しやすくなる」「書き出した物を着脱させられるので仕上がりが良い」といった意見などが見られた。

放射状のメモは大幅な配置構造を直しにくいいため、常に着想と書付けと構造化の作業を同時しなければならない。それを分割処理できるようにすることは、発想作業を促進することが分かった。

また、議論が進んでいく中で『小さな構造を最初に複数仮組みし、それらを更に組み上げていく作業』や『構造の改造作業』も良く観察された。この操作は、模造紙を切り抜いたり、パソコンの放射状のメモ・ソフトでも可能ではあるが、通常、短時間のグループワークではなかなか遂行されない。組み換え容易であることも発想作業を促進することが分かった。

三番目は【個と集の作業がしやすい、集団でも出しやすい】であった。

具体的には「紙一枚でやる放射状のメモよりも、それぞれが発言権を持っている感じがするので自分の意見が言いやすい」「一つ出たアイデアに関して、どんどん発展や上乘せがしやすくなる」「書記が必要ない（自分で書いていくので、きちんと話し合いができる）」といった意見などが見られた。

放射状のメモを書くワークでも、通常、ファシリテータからは、「各自の意見をヒントや刺激として良く聞こう。各人発言しながらそれを模造紙に書き広げていこう」というアナウンスがなされるが、実際はそうしにくいもので、自然と書記が決まり、主導権のある人の意見を書き連ねていくようになりがちである。それを参加個々人の配慮によってうまく乗り越えてもらっている部分はあった。その点をこうした道具で改善することで発想作業が促進されることが分かった。

上位カテゴリーに「アイテムのデザイン」としてあげた3つのデザイン要素の内2つが含まれる結果となった。一方、残る1つは、下位(7番目)の「表現がシンプルになる」である。あまり多くの回答は得なかった。しかし、アンケートをつぶさに読み込むと、他の効果を支持するものであることがわかる。特にシンプルに書くことが「要素の組み換えの容易さ」「広がりやすさ」を生み出している。それを踏まえて、今後の改良時、記入スペースのサイズは維持するか大きくするかを検討してゆく。

6. 今後の課題

今回のアンケートの他の2つの設問「改良要素(発想の阻害となる場所)」や「どのような人(用途)に向いているか」への回答も、今後詳しく分析してゆく。改良要素として挙げたことは、加工・製造の面で改良できることが大半であり改良してゆく。向いている人に関する回答は興味深い記述が多かった。「着想」と「構造化」を分けてできることから、子どもや発想系のワークに不慣れな人のグループに向く、といった意見や、「同じ時間に一つの場所に集まれないチーム」といった意見がみられた。また、むしろ企画的な作業に秀でた人の一人利用なども多くコメントされていた。

今後、アンケート結果やテストユーザの声を貴重な材料として十分に活かし、「アイデアを書くため専用のメモ用紙」を仕上げてゆく。物として形にし、広く社会に提供してゆきたい。

参考文献：

- [1] E.P.トールズ『創造性の教育』誠信書房、1966年
- [2] ヴィクター・パパネック『生きのびるためのデザイン』晶文社、1974年
- [3] トニー・ブザン『ザ・マインドマップ』ダイヤモンド社、2005年
- [4] 石井力重『アイデア・スイッチ 次々と発想を生み出す装置』日本実業出版社、2009年